

策定に関する提言

	戦略	プログラムレベル	プロジェクトレベル
策定	明確な戦略の策定、戦略に沿ったプログラム策定、プロジェクトの配置		
	明確な数値目標の設定		
	* 金額と期間以外の数値目標も設定する。明確な目標設置は、実務者レベル円滑なIDI実施にも貢献する。目標設定のない場合、実施後に事業として評価することも対外的に効果を示すことも不可能である。		
	ベンチマークを設定する。課題分野（HIV感染予防のIEC、母子感染予防等）において日本が何年までに何件の案件を実施するかについて設定する。ベンチマーク達成のための支援が積み上げられていけば対外的に日本の援助の戦略性がより明確に打ち出される。		
	国際保健協力の横断的課題の包含		
	* セクター改革やSWAPを視野に入れ、日本の援助の妥当性を確保する。		
疾患への国際保健協力が垂直的な疾病別対策ではなくなりつつある（例：HIV/AIDS）薬剤供給、NGOや市民社会との連携、基礎的保健インフラの構築、R&Dにおける民間の役割等を包含する。			
社会的、文化人類学的配慮、環境やジェンダーへの配慮、住民参加型援助の推進			
			プロジェクト・デザインの 十分な検討
			プロジェクト目標の明確化と目標を効率的に達成するためのプロジェクト・コンポーネントのスリム化
			プロジェクト・アプローチ の十分な検討
			今後も以下のアプローチを採用することが適当であるか検討をする
			1) パイロット／モデル・プロジェクト等の特定の地域に対する集中的支援プロジェクト（汎用性を検証する）
			2) 保健省下の一部組織への集中的継続的支援の効率性を検証する（特に研究支援プロジェクト、ODAとしてどこまで支援すべきか）
	戦略、プログラムの周知		
	* 戦略とプログラムの対外的な広報は、支援対象国との支援選定のための協議や他ドナーとの連携推進のために不可欠であり、援助効率と効果の改善に資することが多い。また、日本の援助のプレゼンスを高めることになる。		
	* 戦略とプログラムの内部的周知の徹底は、現場レベルでの選択的な案件形成と援助連携の推進に資する。		

短期的に対応可能と考えられる具体的行動